

## 第2回教員 EA プロジェクト応募資料

応募区分	教育実践部門
所属(園・学校名)	北方町立北学園 分教室 学びの多様化学校オンリー1
氏名	山田礼子(オンリー1担任教諭)、川端まな美(オンリー1担任講師)
取り組んだ課題	不登校生徒が生きる力を身に付けられる居場所づくり(学びの多様化学校の創設)
具体的な活動内容	<p>北方町学びの多様化学校オンリー1では、義務教育学校8, 9年生の不登校経験のある生徒を対象に、以下の3点を工夫し、自分で学習内容を決め、自分のペースで学習することのできる新たな仕組みの学校づくりに取り組んでいる。</p> <p><b>1. ゆとりの持てる学校生活</b></p> <p>①特別な教育課程の編成…合科的な科目の創設により総時間数を減らして学習する ②日課や遅刻・早退の工夫…ゆとりのある日課を設定し、遅刻早退の捉え方を変える</p> <p>〈自分の状態を踏まえた登校スタイルの決定〉※ある生徒の例 新しい環境や自身の体調への不安から、当初は登校を渋ることや欠席もあった。決まった日課や“やるべきこと”とされている活動(テスト受ける、授業に出る、給食を食べる、など)への参加を、自分の状態と相談しながら決められる場所だ、ということ言葉をにして繰り返し伝えた。他の生徒の様子からもその言葉への信頼感を高め、心穏やかに参加できる活動や興味のある授業への参加を中心に登校を安定させた。自身の体力への自覚も高まり、「体力をつけないと。」と話すようになった。</p> <p><b>2. 自分のペースで進める学習</b></p> <p>①楽しめる活動の設定…好き、得意、未経験等の活動をバランスよく取り入れる ②学び直しができる支援…自分で時間割を決めたり、オンラインを活用したりする</p> <p>〈オンライン授業を活用した継続的な学びと学び直し〉※ある生徒の例 開校から1日も欠かさず登校とオンラインを活用し学習をした。学習の空白期間の長さや経験不足から、学び直しやソーシャルスキルの獲得が必須と思われる場面が多かったが、場所や方法を問わずに、まずは毎日<u>継続をうながす声かけをしたこと</u>が有効な支援となった。夏休み前には、年度当初にはなかった「自分の言葉で振り返りを書く」「授業でできたことを提出する」等の姿があった。「最近勉強したい感じ」と、学習時間が増えている。</p> <p><b>3. 自分たちの生活の向上を図る活動</b></p> <p>①協力して学びやすい環境づくり…自分たちの思いをもとに計画、準備、活動する</p> <p>〈個別学習室のデザイン企画〉※全員での活動例 「1階にある学習室がさみしいね。」と給食中の話題にあがったことから、ペンキ塗りの活動が始まった。多くの種類から色を決め、下塗り、重ね塗り、養生、2色目を入れて完成、と数回の色塗りを重ねてようやく完成させた。計画から実施まで1か月半ほどの時間を要したことや活動が数日に及んだことなどから、当初は「塗りたい！」と乗り気だったものの、生徒が揃って活動できる日は少なかった。気持ちの継続や長いスパンでの見通しを持ちづらい、といった生徒の課題も見えた活動となったが、どの生徒も少しずつ活動に関わり、完成日には達成感を味わうことができた。</p>
取り組み成果	<p>年度当初は静かで動きのなかった教室に、今は笑い声や止まらない会話が響く。一緒に生活する仲間(生徒、教員)の前ではマスクをとる生徒も増えた。気持ちや体調に合わせた生活の仕方を尊重していること、他の生徒が尊重されていることを知ったこと、自分の思いが実現に向けて動くことなどを知ったことが、安心感や意欲につながった。それらが、生活の中での困り感を言葉にしたり、登校に対する自分のペースを考え始めたりする行動にも表れてきていて、自分の意思で決定し、頑張ろうと努力を続ける気持ちが生まれてきている。</p>
今後の活動展開	<p>自己理解を深める活動を基本に置き、「なりたい自分」を思い描きながら自己選択ができる力を育てたい。この先に自分と他者を比べて落ち込む瞬間があっても、自己理解に基づき、自分にできることを前向きに選択して生きるエネルギーを、生徒が卒業するまでの時間の中で、たくさん心に貯めていけるように関わりたい。</p>
校長(園長)所見	<p>担任の先生方は、生徒に寄り添い、一人一人の様子を記録しながら指導内容を検討し、日々改善の努力をしてきた。その成果として登校時間や学習内容を自分で決め、日常の中で登校へのリズムが定着してきたり、自分の考えを言葉にできるようになってきたりしている。特設教科「アクション」の時間では、出前授業などを通して仲間とつながり協働する姿や自信を付けた表情が見られるようになった。オンリー1が大切な居場所になってきていることが分かる。常に生徒に軸足を置き、生徒の笑顔につながる創意と工夫ある実践である。</p>

参考資料

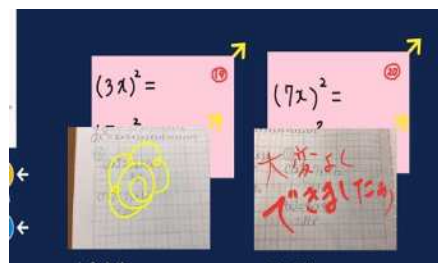
### 1 ゆとりの持てる学校生活

【様々な学習内容を自己決定し取り組む姿】



### 2 自分のペースで進める学習

【オンライン授業や個々で決めた学習に取り組む姿】



### 3 自分たちの生活の向上を図る活動

【居心地のいい教室にするために環境づくりに取り組む姿】

